

よりよい授業づくりのために、学校管理職に求められること



京都大学大学院教授

西岡加名恵

ポイント

- ① 学校においては、カリキュラムの改善につながるような授業改善を組織的に進めることが求められている。
- ② その際、管理職には、明確なビジョンを示すこと、効果的な教員研修を推進する条件整備をすること、教職員をチームとして育てることが求められる。

カリキュラム・マネジメントの重要性

2017・2018年改訂学習指導要領においては、「組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていく」という「カリキュラム・マネジメント」の重要性が強調されている。日本では、よりよい授業づくりのために授業研究を行ってきた伝統があるが、今後は、単に個々の授業を改善するだけでなく、学校として提供するカリキュラム全体を改善する視点が求められている。

カリキュラム（教育課程）とは、教師たちが、子どもたちの成長と発達に必要な文化を選択して組織した全体的な学習経験の計画と実践である（西岡加名恵『教育課程』協同出版、2017年）。学校教育目標でめざされている子どもたちの姿を実現するためには、カリキュラムの改善が欠かせない。

また、カリキュラムが単なる紙上の計画ではなく子どもたちに届くものとなるためには、授業を実践する教師たちの力量向上が必須である。そこで、教師の実践力を高めるために、授業研究も含めた教員研修を計画的に実施することが重要である。

カリキュラム改善に向けた授業づくりに取り組む際には、3～5年程度の見通しを持つことが望ましい。単年度でできることは限られていても、数年後にはこのような授業を学校全体で実現するという見通しのもとで取り組みを重ねることで、大きな改革につなげることができる。教員研修の具体的な内容などの詳細を